

「私は、あるお屋敷に、お腰入れをしました。が、数日前に、おまえはけがれた女だからと、おひまを出され、不吉な女として、小舟に乗せられ、流されたのです。」

と、泣きくずれてしまいました。漁師たちは、あまりの美人なので、同情もひとしおでした。ですから、この話も信じられないのです。

「そんなことはないだろう。こんな美しい女の人を流したりするわけがない」と、信じませんでした。

「そんなひどいことをするはずがないと思うがなあ。」

人々は、口々に言うのです。

「いいえ、私の言っていることは本当なのです。」

「では、なぜあなたは、けがれた女なのですか。」

「.....」

何回尋ねても返事がありませんでした。人々は、うす気味悪くなり、女の人の方を言っている